

授業概要

これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を学ぶとともに、教育の目的に適した指導技術を理解する。そのために、児童・生徒の学びのプロセスを踏まえながら、主に心理学を背景とした、学力・授業・教育評価に関する理論について講義する。授業づくりのために必要な基礎知識や枠組みを学ぶとともに、その知識が教育実践でどう活かされるのかを考える。また、我々が受けてきた「授業」における教授や学習のあり方についても改めて問い直していく。

授業計画

第 1 回	ガイダンス（教育における方法とはどういうものか）
第 2 回	これからの子どもたちに育みたい資質・能力
第 3 回	主体的・対話的で深い学びのための教育の方法
第 4 回	日本における子どもの学力の特徴を捉える
第 5 回	授業をつくるということ（子どもの学びと教育の技術）
第 6 回	教育の道具・素材・環境を考える
第 7 回	授業を支える指導技術（話法・板書など授業の基礎的技術の視点から）
第 8 回	メタ認知をどのように育てるか
第 9 回	学習の動機づけをどのように高めるか
第 10 回	学習目標をどのように設定するか
第 11 回	学力をどのように評価するか
第 12 回	現代の学校教育における情報通信技術活用の意義と在り方
第 13 回	情報通信技術を効果的に活用した学習指導
第 14 回	特別の支援を必要とする児童への対応と情報通信機器の活用
第 15 回	情報活用能力・情報モラルを育てる指導法
第 16 回	定期試験

到達目標

- 授業づくりのために必要な基礎知識や枠組みについて理解することができる。
- これまで自分自身が学習者として経験してきた「授業」や、教育実践を問う視点を獲得することができる。
- 多種多様な学習者や環境に応じて、どのような教育方法が効果的かを自ら判断して選択できる。

履修上の注意

授業は講義形式で行うが、小レポートを書くなどのワークを毎回課すので、積極的に授業に参加すること。出欠は厳密に記録にとるので、そのつもりで受講すること。

予習・復習

予習として、予め配布する資料に目を通しておくこと。
また、資料と授業の内容を併せて復習し、参考文献なども用いて理解を深めること。

評価方法

授業での取り組み（40%）と定期試験（60%）によって行う。
授業での取り組みについては、授業で課すレポート等の評価および提出状況と、授業態度なども考慮する。

テキスト

テキストは指定しない。毎回の授業で資料を配布する。授業内で適宜、参考文献を紹介する。

<参考文献>

小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総則編 文部科学省 東洋館出版社（2018）

授業概要

これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を学ぶとともに、教育の目的に適した指導技術を理解する。そのために、児童・生徒の学びのプロセスを踏まえながら、主に心理学を背景とした、学力・授業・教育評価に関する理論について講義する。授業づくりのために必要な基礎知識や枠組みを学ぶとともに、その知識が教育実践でどう活かされるのかを考える。また、我々が受けてきた「授業」における教授や学習のあり方についても改めて問い直していく。

授業計画

第 1 回	ガイダンス（教育における方法とはどういうものか）
第 2 回	これからの子どもたちに育みたい資質・能力
第 3 回	主体的・対話的で深い学びのための教育の方法
第 4 回	日本における子どもの学力の特徴を捉える
第 5 回	授業をつくるということ（子どもの学びと教育の技術）
第 6 回	教育の道具・素材・環境を考える
第 7 回	授業を支える指導技術（話法・板書など授業の基礎的技術の視点から）
第 8 回	メタ認知をどのように育てるか
第 9 回	学習の動機づけをどのように高めるか
第 10 回	学習目標をどのように設定するか
第 11 回	学力をどのように評価するか
第 12 回	現代の学校教育における情報通信技術活用の意義と在り方
第 13 回	情報通信技術を効果的に活用した学習指導
第 14 回	特別の支援を必要とする生徒への対応と情報通信機器の活用
第 15 回	情報活用能力・情報モラルを育てる指導法
第 16 回	定期試験

到達目標

- 授業づくりのために必要な基礎知識や枠組みについて理解することができる。
- これまで自分自身が学習者として経験してきた「授業」や、教育実践を問う視点を獲得することができる。
- 多種多様な学習者や環境に応じて、どのような教育方法が効果的かを自ら判断して選択できる。

履修上の注意

授業は講義形式で行うが、小レポートを書くなどのワークを毎回課すので、積極的に授業に参加すること。出欠は厳密に記録にとるので、そのつもりで受講すること。

予習・復習

予習として、予め配布する資料に目を通しておくこと。
また、資料と授業の内容を併せて復習し、参考文献なども用いて理解を深めること。

評価方法

授業での取り組み（40%）と定期試験（60%）によって行う。
授業での取り組みについては、授業で課すレポート等の評価および提出状況と、授業態度なども考慮する。

テキスト

テキストは指定しない。毎回の授業で資料を配布する。授業内で適宜、参考文献を紹介する。

<参考文献>

中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総則編 文部科学省 東山書房（2020）

高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 総則編 文部科学省 東洋館出版社（2019）